

# 第2章 佐賀市の子どもや若者の声

## 1 アンケート調査結果の概要

### 1 調査の概要

#### (1)調査対象

- ①こどもの生活アンケート:市立小学校5年生の児童と保護者/市立中学校2年生の生徒と保護者
- ②若者アンケート:市内在住の16歳~39歳

#### (2)調査期間

- ①令和7年2月25日~3月19日
- ②令和7年2月25日~3月10日

#### (3)調査方法

- ①児童生徒は学校でWEB回答、保護者は学校を通じて配付しWEB回答
- ②案内状を郵送しWEB回答

#### (4)配付・回答状況

		配付数	有効回答数	有効回答率
①	小学5年生の児童	2,023票	1,764票	87.2%
	中学2年生の生徒	1,862票	1,467票	78.8%
	小学5年生・中学2年生の保護者	3,885票	2,267票	58.4%
②	若者	2,983票	994票	33.3%

## (5)こどもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類

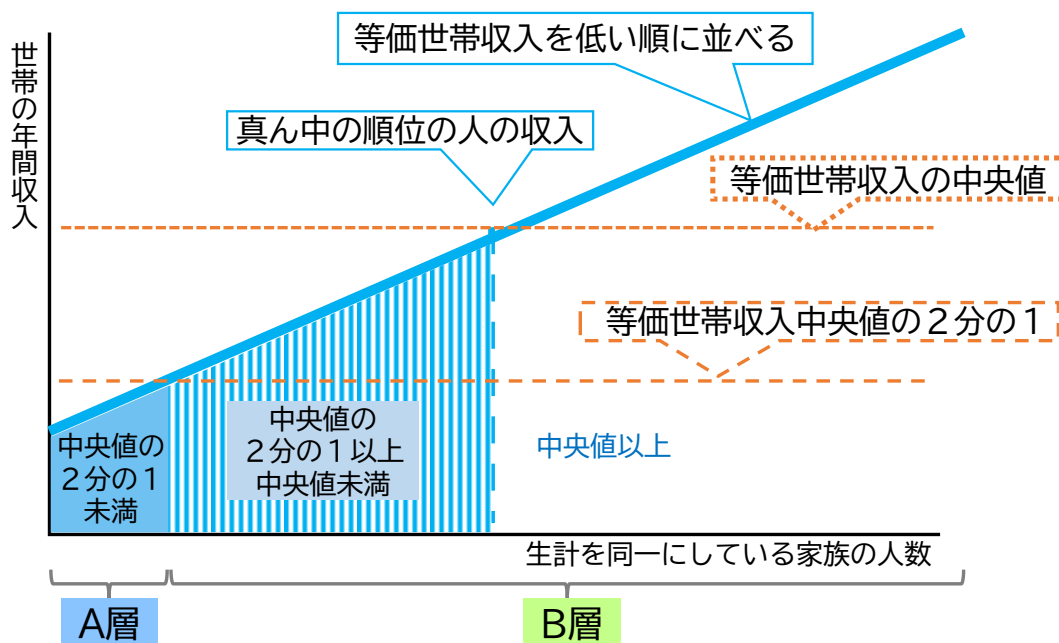
こどもの生活アンケートでは、保護者の「生計を同一にしている家族の人数」と「世帯全体の年間収入」への回答結果から、以下のような処理を行い、「等価世帯収入」による経済的な状況の分類を行っています。

- 年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする(例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする)。
- 上記の値を、同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
- 上記の方法で算出した値(等価世帯収入)の中央値を求め、「中央値以上」、「中央値の2分の1以上中央値未満」、「中央値の2分の1未満」で分類する。

本報告では「中央値の2分の1未満」を「A層」、それ以外を「B層」と表現しています。

### ▼こどもの生活アンケートにおける経済的な状況の分類

等価世帯収入 = 世帯の収入を、同居家族の人数の平方根で除す



## 2 こどもの生活アンケート・若者アンケート

本計画は、国の「こども大綱」を勘案して策定することから、アンケート結果の概要は、同大綱の「第3 こども施策に関する重要事項」の内容を参考に構成しています。

なお、以下、報告書内において調査名は次のように表記しています。

○小学5年生・中学2年生：<小5・中2>

○小学5年生・中学2年生の保護者：<保護者>

○若者：<若者>

### (1)こどもが権利の主体であること

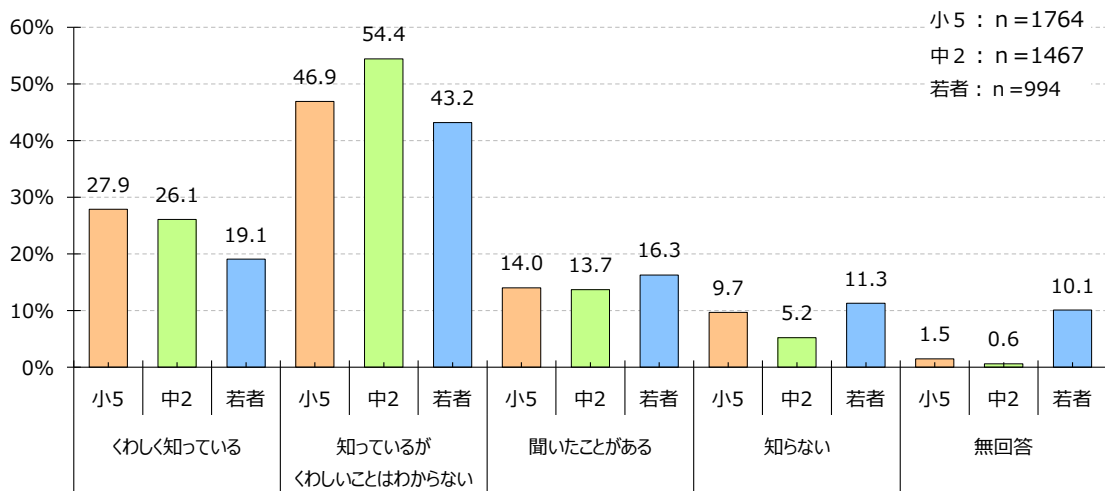
#### こどもの権利の認知

<小5・中2> <若者>

問 全てのこどもは生まれた時から権利をもっているということを知っているか(単一回答)

「くわしく知っている」は、小学5年生で27.9%、中学2年生で26.1%、若者で19.1%、「知らない」は、小学5年生で9.7%、中学2年生で5.2%、若者で11.3%となっています。

「聞いたことがある」は年齢に関わらず一定数みられます。「くわしく知っている」は若者で少なくなる傾向がみられます。



※グラフ・表中のnは回答者数(以下同じ)

若者の「くわしく知っている」を性別・年齢別にみると、性別ではほとんど差がみられませんが、年齢別では35歳以上で割合が低くなっています。

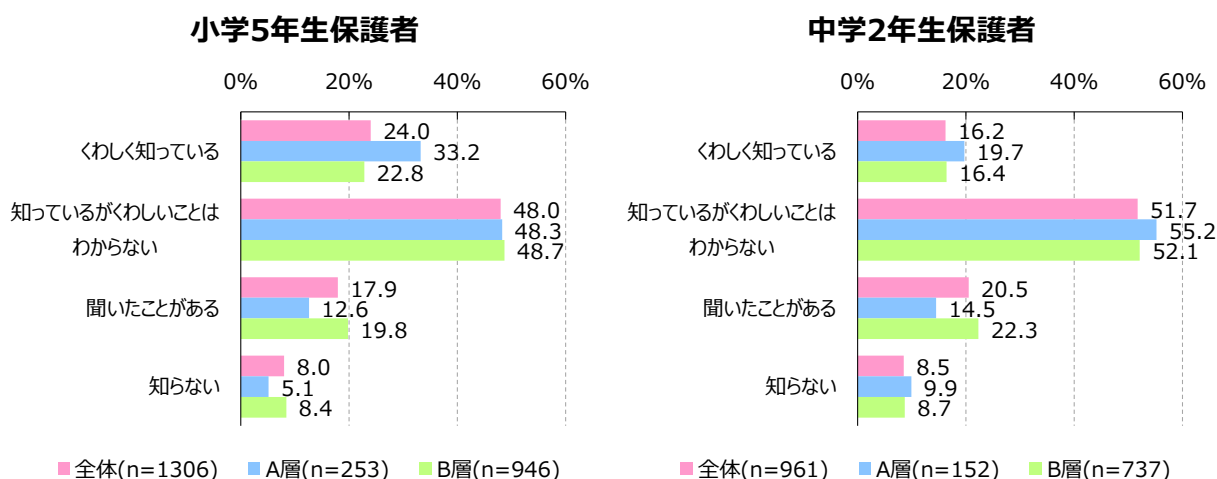
	n	くわしく知っている (%)	知っているがくわしいことはわからない (%)	聞いたことがある (%)	知らない (%)	無回答 (%)
全体	994	19.1	43.2	16.3	11.3	10.1
男性	389	19.0	37.9	16.7	15.9	10.5
女性	594	19.4	47.0	15.8	8.4	9.4
その他	9	11.1	33.4	22.2	0.0	33.3
16歳～19歳	204	22.1	47.5	13.2	7.4	9.8
20歳～24歳	135	23.0	35.5	15.6	13.3	12.6
25歳～29歳	149	21.5	39.0	18.1	10.7	10.7
30歳～34歳	210	21.0	45.7	11.4	11.9	10.0
35歳～39歳	288	12.8	44.5	21.5	13.2	8.0

<保護者>

問 全てのこどもは生まれた時から権利をもっているということを知っているか(単一回答)

小学5年生保護者全体では、「知っているがくわしいことはわからない」が48.0%、「くわしく知っている」が24.0%、「聞いたことがある」が17.9%、中学2年生保護者全体では、「知っているがくわしいことはわからない」が51.7%、「聞いたことがある」が20.5%、「くわしく知っている」が16.2%となっています。

経済的な状況別に「くわしく知っている」をみると、小学5年生保護者、中学2年生保護者ともに、A層がB層より多くなっていますが、特に、小学5年生保護者のA層は33.2%で、B層の22.8%より10.4ポイント多くなっています。



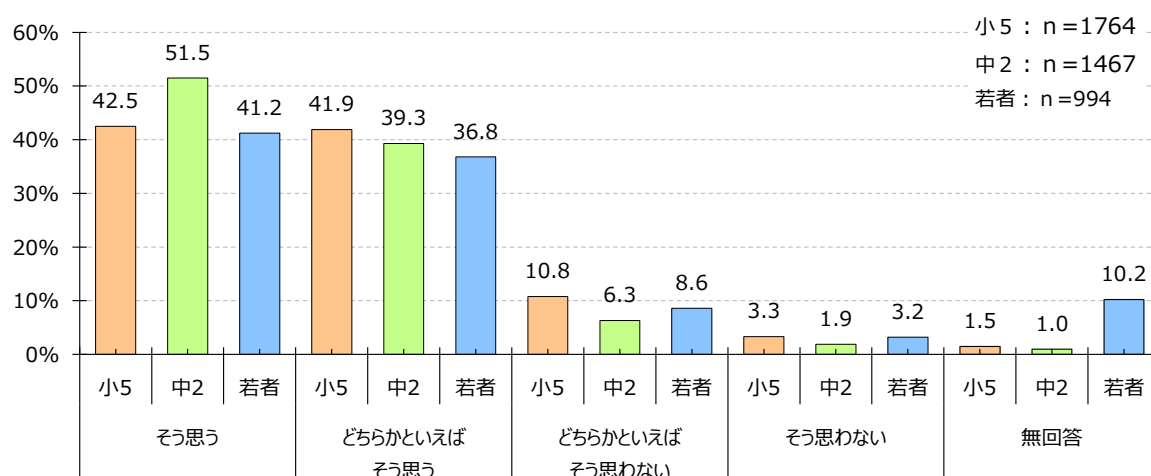
**こども・若者の意見の尊重**

<小5・中2><若者>

問 自由に意見を言えて、自分の意見をまわりの人に考えてもらえていると思うか(単一回答)

「そう思う」は、小学5年生で42.5%、中学2年生で51.5%、若者で41.2%、「そう思わない」は小学5年生で3.3%、中学2年生で1.9%、若者で3.2%となっています。

「そう思う」の割合は中学2年生が最も高く、「どちらかといえばそう思う」の割合は年齢が上がるほど低下する傾向がみられます。

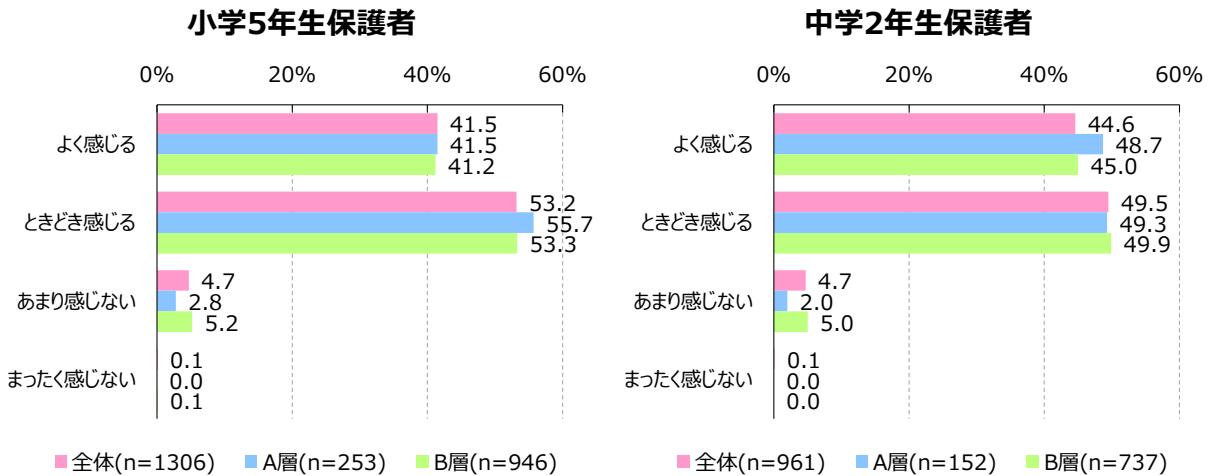


<保護者>

問 生活の中で子どもの個性や意見を尊重できていると感じるか(単一回答)

小学5年生保護者全体では「ときどき感じる」が53.2%、「よく感じる」が41.5%、「あまり感じない」が4.7%、中学2年生保護者全体では「ときどき感じる」が49.5%、「よく感じる」が44.6%、「あまり感じない」が4.7%となっています。

経済的な状況別に「あまり感じない」をみると、小学5年生保護者、中学2年生保護者ともに、A層がB層より少なくなっています。



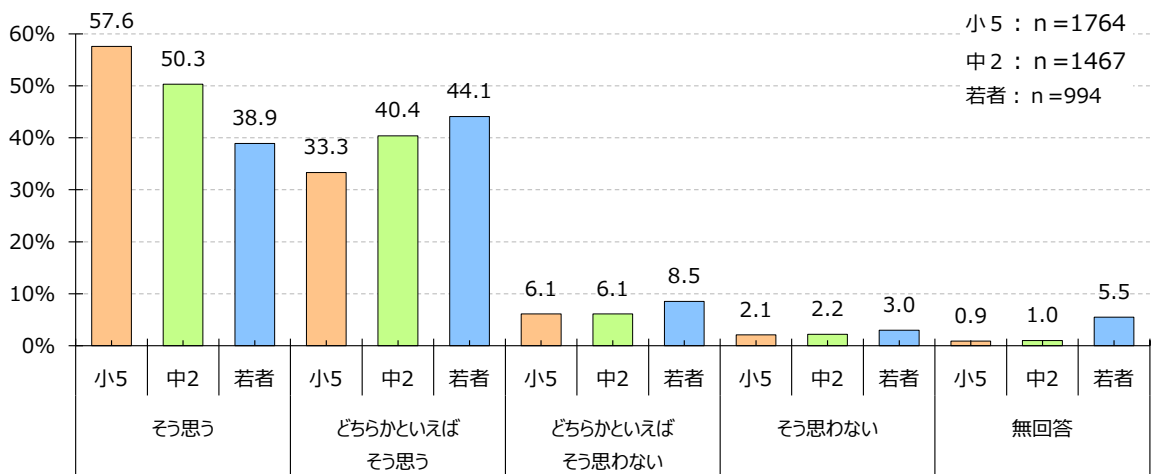
子ども・若者の幸福感・不安感

<小5・中2><若者>

問 今、自分が幸せだと思うか(単一回答)

「そう思う」は、小学5年生で57.6%、中学2年生で50.3%、若者で38.9%、「そう思わない」は、小学5年生で2.1%、中学2年生で2.2%、若者で3.0%となっています。

年齢が上がるほど、幸せだと「思う」から「どちらかといえば思う」へと幸福感が移行していく傾向がみられます。



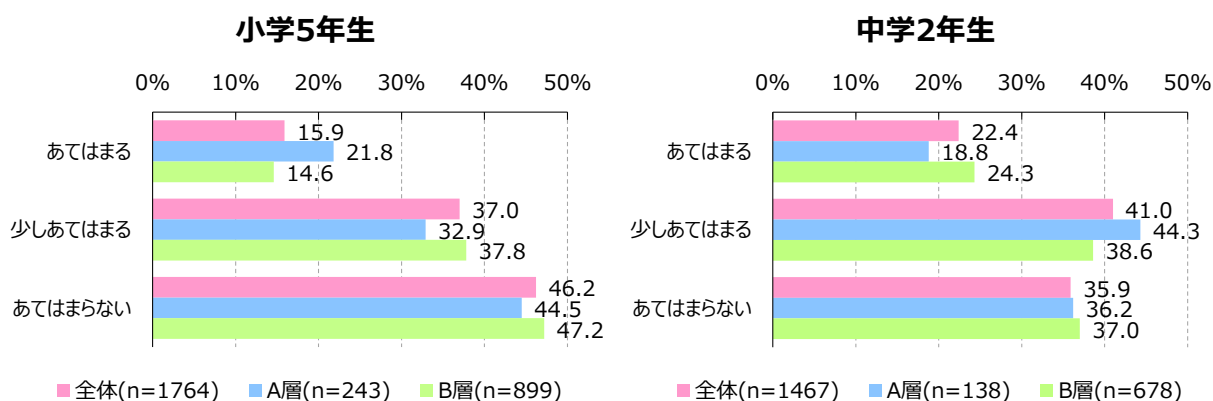
第1章  
第2章  
第3章  
第4章  
第5章  
資料

<小5・中2>

問 「心配ごとが多く、いつも不安だ」の状態にあてはまるか(単一回答)

小学5年生全体では、「あてはまらない」が46.2%、「少しあてはまる」が37.0%、「あてはまる」が15.9%、中学2年生全体では、「少しあてはまる」が41.0%、「あてはまらない」が35.9%、「あてはまる」が22.4%となっています。

経済的な状況別に「あてはまる」をみると、小学5年生ではA層がB層より7.2ポイント多くなっています。



## (2)多様な遊びや体験、活躍できる機会

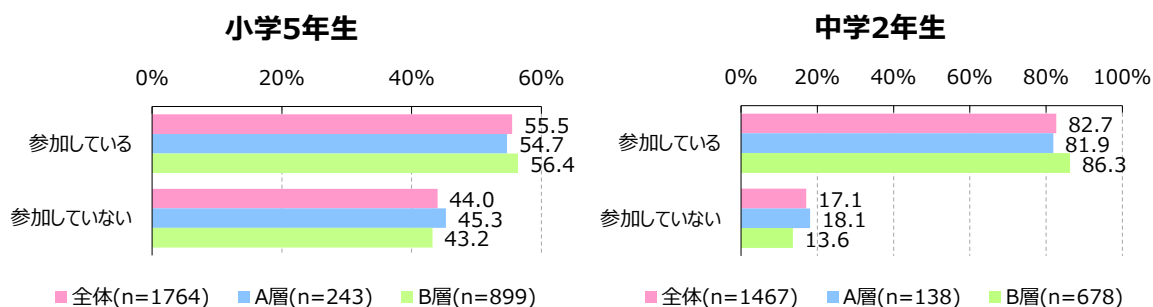
### 地域のクラブや部活動への参加

<小5・中2>

問 地域のスポーツクラブ・文化クラブや学校の部活動に参加しているか(単一回答)

小学5年生全体では、「参加している」が55.5%、「参加していない」が44.0%、中学2年生全体では、「参加している」が82.7%、「参加していない」が17.1%となっており、「参加している」は、小学5年生より中学2年生の方が27.2ポイント多くなっています。

経済的な状況別に「参加していない」をみると、小学5年生、中学2年生ともにA層が全体より多くなっています。



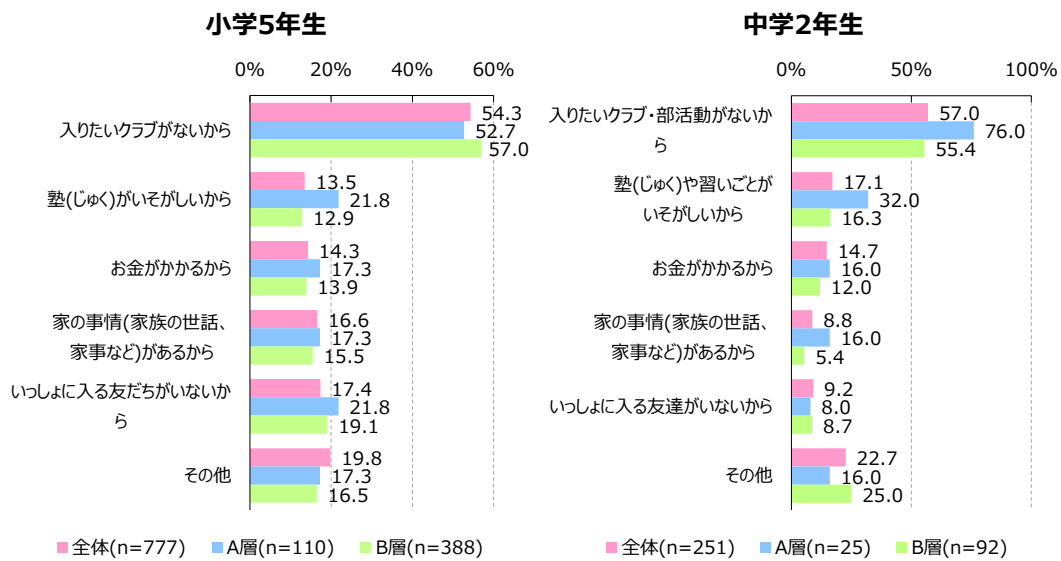
<小5・中2>

(地域のスポーツクラブ・文化クラブや学校の部活動に「参加していない」と答えた人)

問 参加していない理由(複数回答)

小学5年生全体では、「入りたいクラブがないから」が54.3%と最も多く、中学2年生全体では、「入りたいクラブ・部活動がないから」が57.0%と最も多くなっています。

経済的な状況別にみると、「入りたいクラブがないから」は、中学2年生のA層がB層より20.6ポイント多くなっています。「お金がかかるから」「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」は小学5年生、中学2年生ともにA層が全体より多くなっており、特に「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」は、中学2年生のA層がB層より10.6ポイント多くなっています。



第1章  
第2章  
第3章  
第4章  
第5章  
資料

## 部活動に関する保護者の負担感

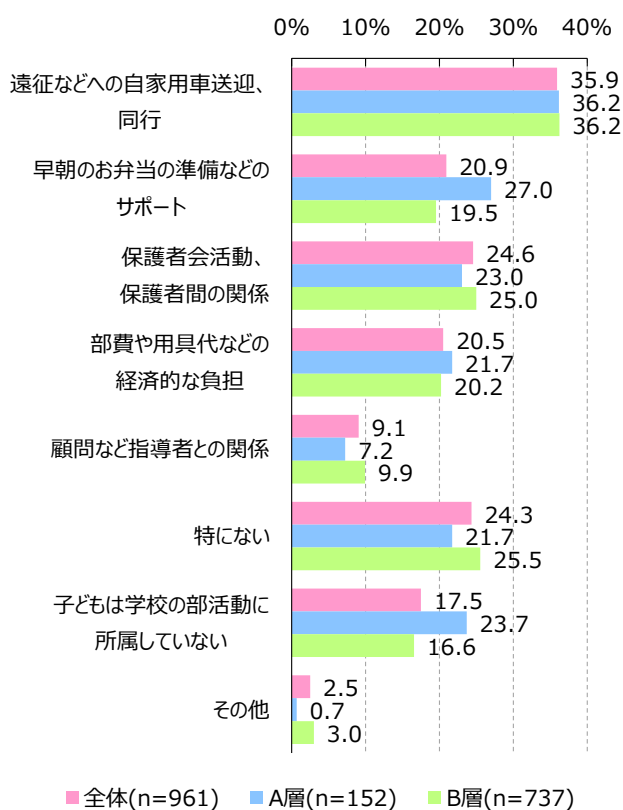
<保護者>(中2 保護者のみの設問)

問 こどもが学校の部活動に所属している場合、保護者として負担に感じる事(複数回答)

「遠征などへの自家用車送迎、同行」が 35.9%、「保護者会活動、保護者間の関係」が 24.6%、「特にない」が 24.3%となっています。

経済的な状況別に「早朝のお弁当の準備などのサポート」をみると、A層が 27.0%で、B層の 19.5%より 7.5 ポイント多く、A層における負担感の大きさがうかがえます。また、「こどもは学校の部活動に所属していない」でも、A層が 23.7%で、B層の 16.6%より 7.1 ポイント多くなっています。

### 中学2年生保護者



## (3)課題や困難を抱える子どもや家庭

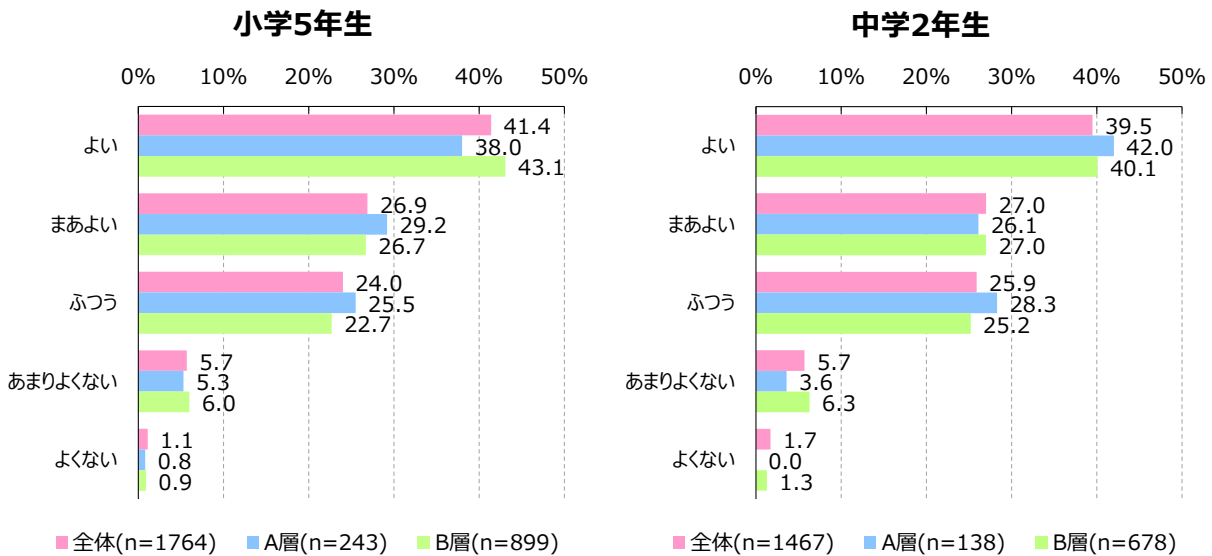
## 経済的な状況と子どもの主観的健康感(自身が感じる健康状態)

&lt;小5・中2&gt;

問 健康状態(単一回答)

小学5年生全体では、「よい」が41.4%、「まあよい」が26.9%、「ふつう」が24.0%、中学2年生全体では、「よい」が39.5%、「まあよい」が27.0%、「ふつう」が25.9%となっています。

経済的な状況と主観的健康感に明確な相関はみられません。



## 授業がわからないときの対応

<小5・中2>

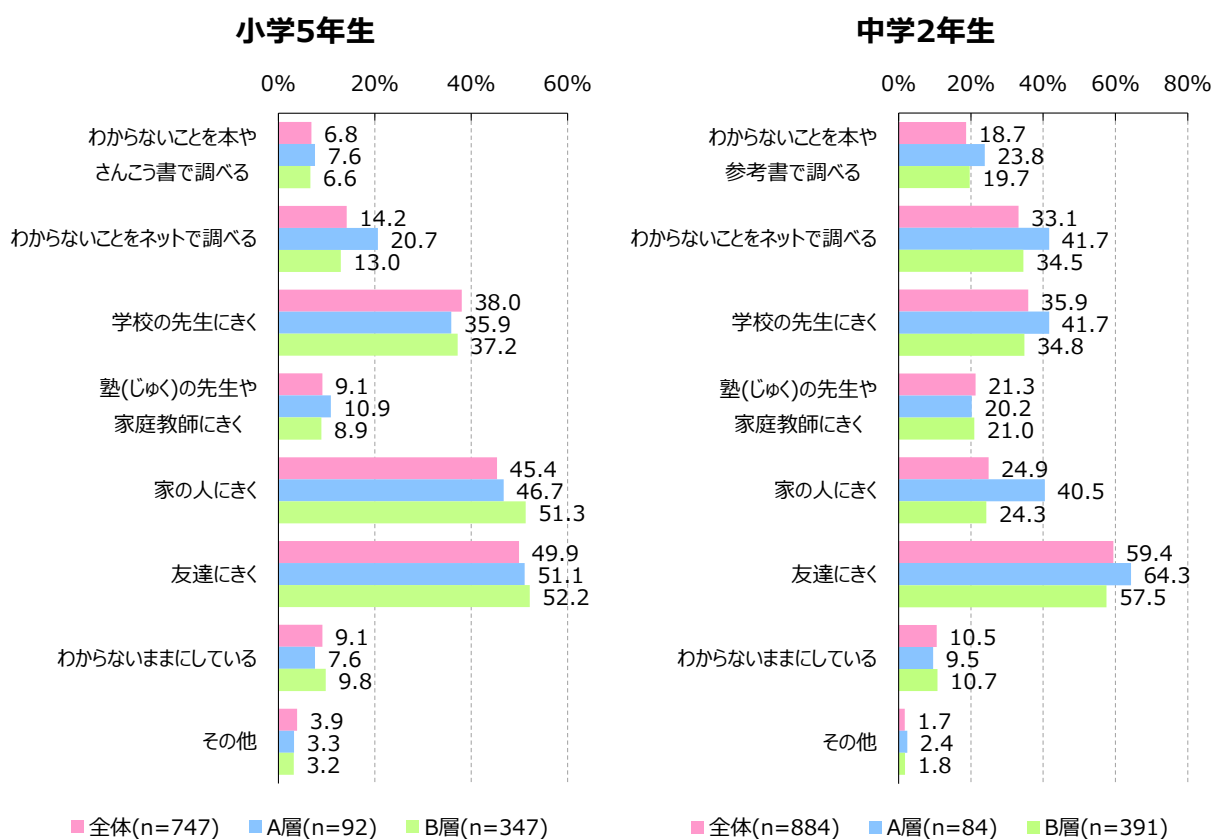
(学校の授業で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人)

問 授業でわからないことがあるとき、どうしているか(複数回答)

小学5年生全体では、「友達にきく」が49.9%、「家の人にきく」が45.4%、「学校の先生にきく」が38.0%、中学2年生全体では、「友達にきく」が59.4%、「学校の先生にきく」が35.9%、「わからないことをネットで調べる」が33.1%となっています。

「わからないことを本や参考書で調べる」「わからないことをネットで調べる」「塾(じゅく)の先生や家庭教師にきく」をみると、いずれも小学5年生より中学2年生の方が多くなっていますが、「家の人にきく」では、中学2年生の方が少なくなっています。

経済的な状況別に「家の人にきく」をみると、中学2年生のA層がB層より16.2ポイント多くなっています。



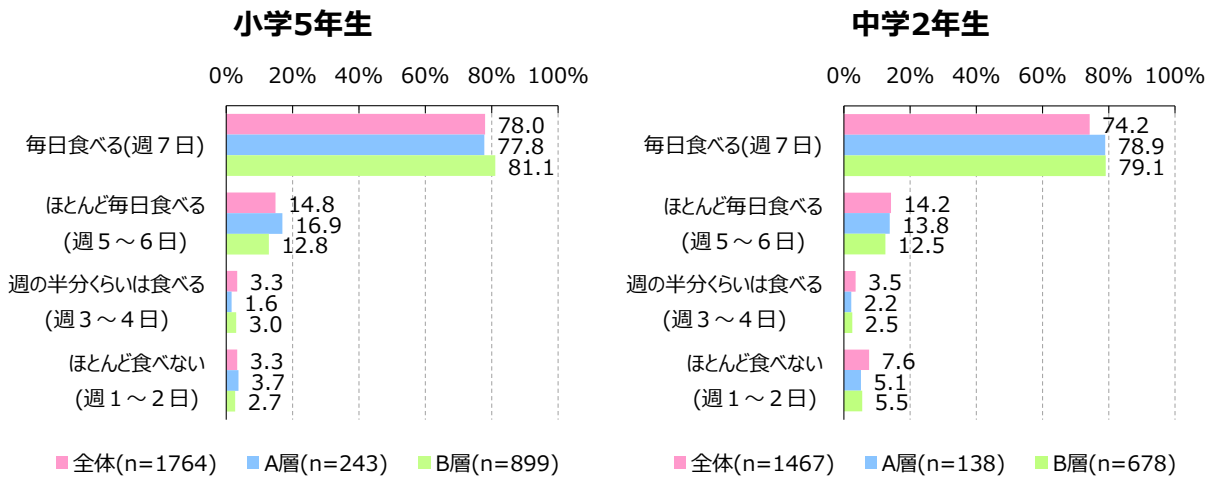
**朝食の摂取状況**

<小5・中2>

問 週にどのくらい朝食をとっているか(単一回答)

小学5年生全体では、「毎日食べる(週7日)」が78.0%、「ほとんど毎日食べる(週5~6日)」が14.8%、「週の半分くらいは食べる(週3~4日)」と「ほとんど食べない(週1~2日)」が3.3%、中学2年生全体では、「毎日食べる(週7日)」が74.2%、「ほとんど毎日食べる(週5~6日)」が14.2%、「ほとんど食べない(週1~2日)」が7.6%となっています。

「ほとんど食べない(週1~2日)」は、中学2年生の方が多くなっています。



## (4)子ども・若者の自己肯定感<sup>4</sup>・悩みの相談

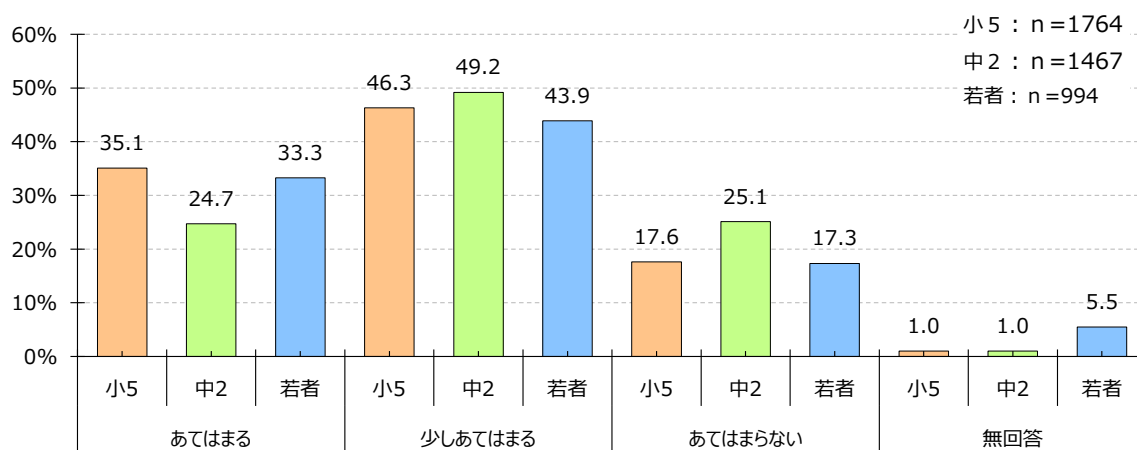
### 自己肯定感

<小5・中2><若者>

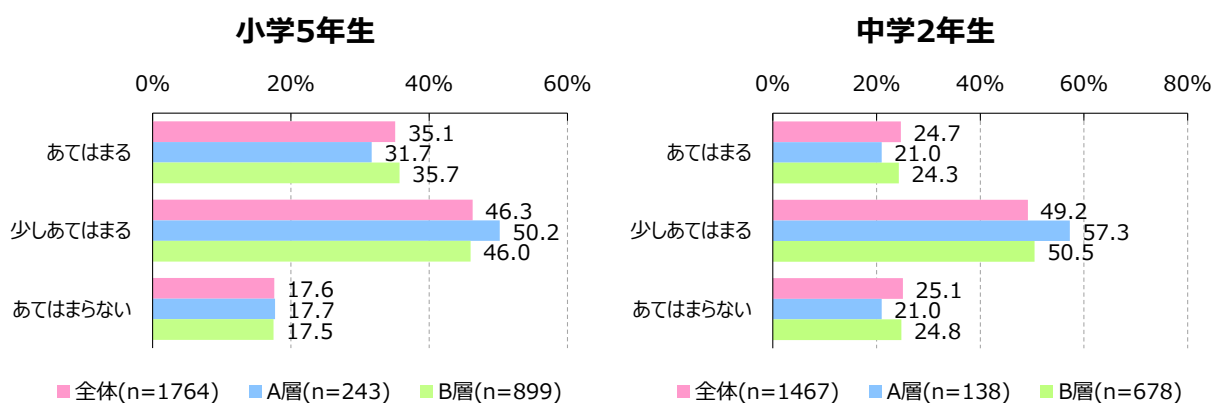
問「今の自分が好きだと思う」の状態にあてはまるか(単一回答)

「あてはまる」は、小学5年生で35.1%、中学2年生で24.7%、若者で33.3%、「あてはまらない」は、小学5年生で17.6%、中学2年生で25.1%、若者で17.3%となっています。

中学2年生では、小学5年生や若者と比べて、今の自分が好きだと思わない傾向がみられます。



小学5年生と中学2年生について、経済的な状況別に「あてはまる」をみると、いずれもA層が全体より少なくなっています。



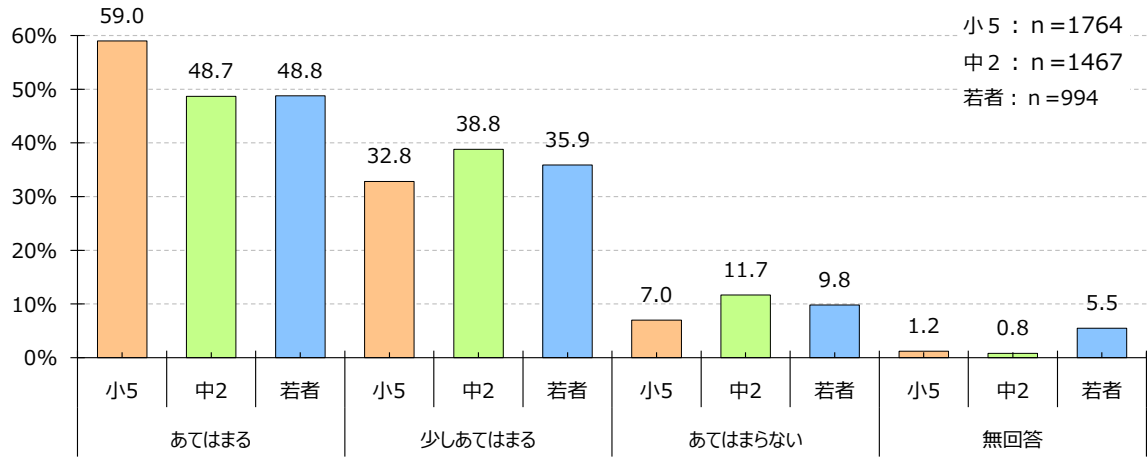
<sup>4</sup> 自己肯定感：ありのままの自分を「これでいい」と認め尊重する感覚。長所・短所に関わらず「自分には存在価値がある」と思える心理状態で、自尊心などとも呼ばれる。

<小5・中2><若者>

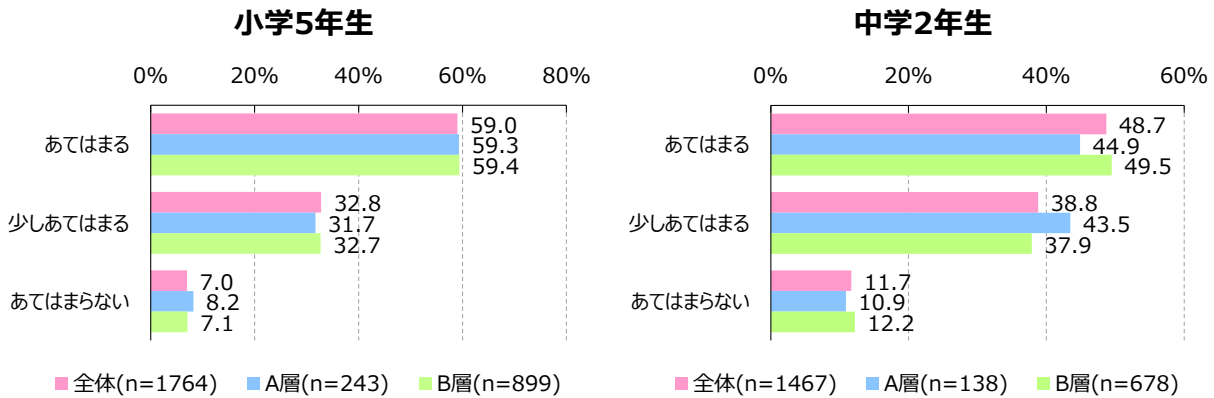
問 「自分には自分らしさというものがあると思う」の状態にあてはまるか(単一回答)

「あてはまる」は、小学5年生で59.0%、中学2年生で48.7%、若者で48.8%、「あてはまらない」は、小学5年生で7.0%、中学2年生で11.7%、若者で9.8%となっています。

小学5年生では、自分には自分らしさというものがあると思う人が多い傾向がみられます。



小学5年生と中学2年生について、経済的な状況別に「あてはまる」をみると、中学2年生ではA層がB層より4.6ポイント少なくなっています。



## なやみや心配ごとと相談先、相談方法

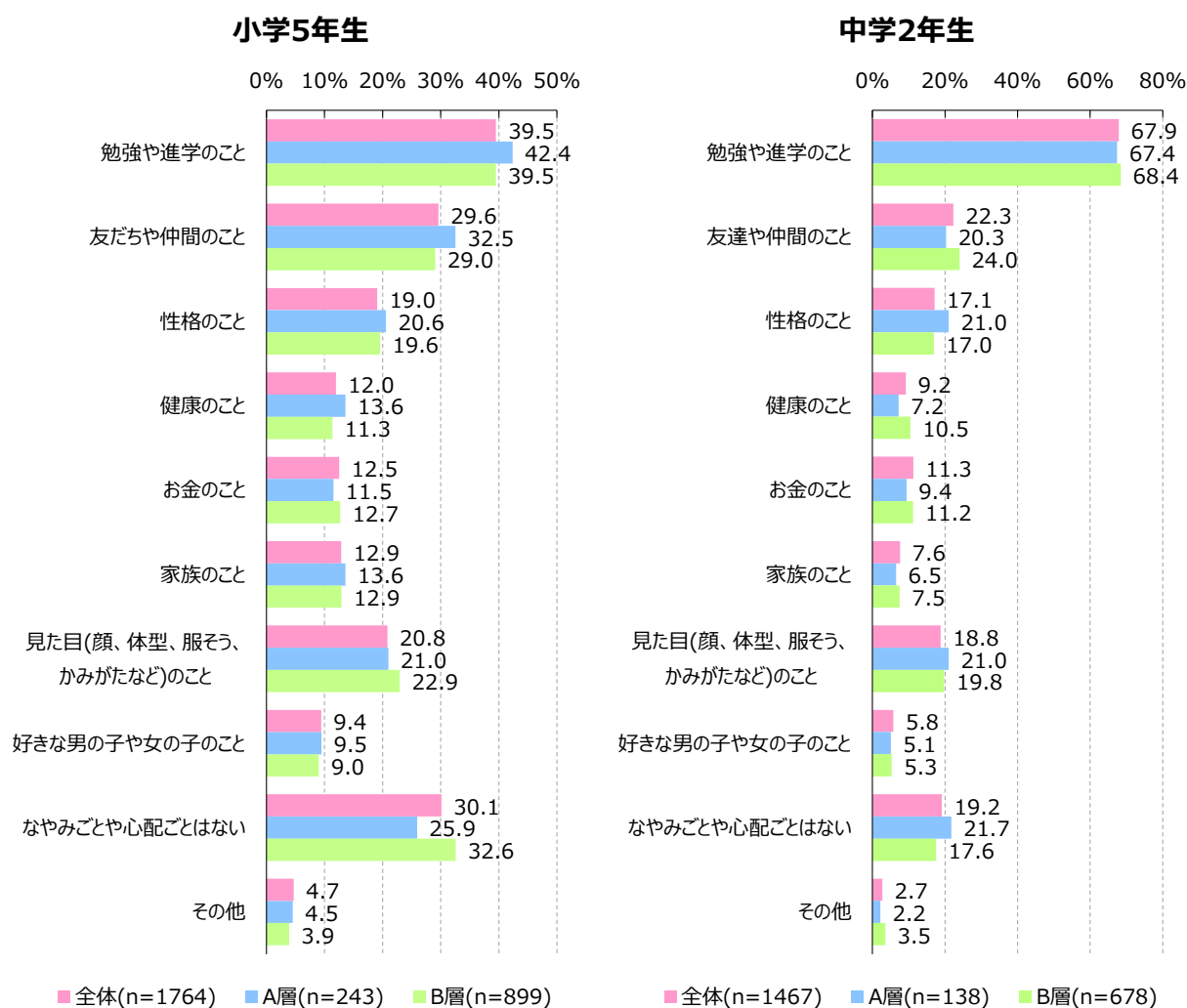
<小5・中2>

問 どのようななやみごとや心配ごとがあるか(複数回答)

小学5年生全体では、「勉強や進学のこと」が39.5%、「なやみごとや心配ごとはない」が30.1%、「友だちや仲間のこと」が29.6%となっています。

中学2年生全体では、「勉強や進学のこと」が67.9%、「友達や仲間のこと」が22.3%、「なやみごとや心配ごとはない」が19.2%となっています。

「なやみごとや心配ごとはない」は、小学5年生の30.1%が、中学2年生では19.2%と少なくなり、「勉強や進学のこと」は、小学5年生の39.5%が、中学2年生では67.9%と多くなっています。

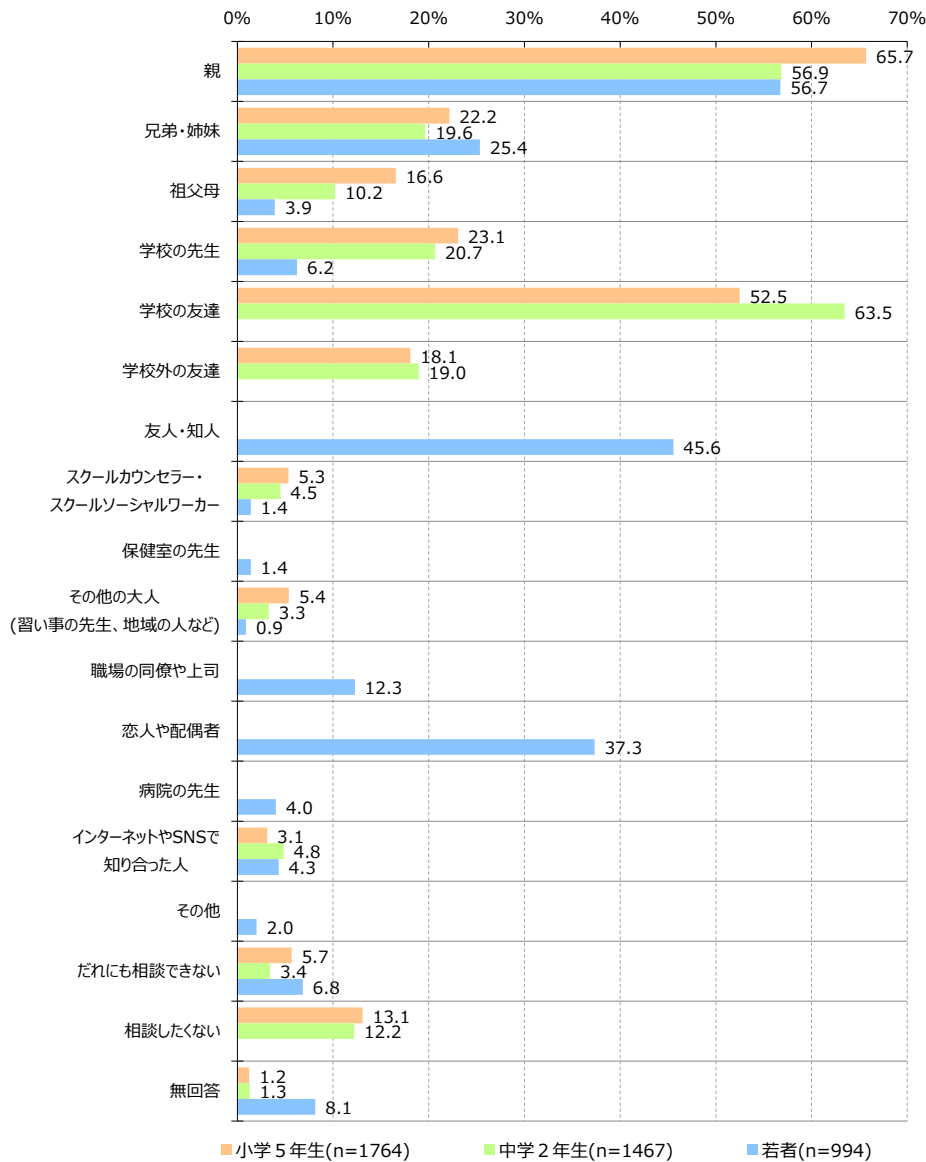


<小5・中2><若者>

問 なやみごとや心配ごとがあるとき、相談できると思う人(複数回答)

小学5年生では、「親」が65.7%、「学校の友達」が52.5%、「学校の先生」が23.1%、中学2年生では、「学校の友達」が63.5%、「親」が56.9%、「学校の先生」が20.7%、若者では、「親」が56.7%、「友人・知人」が45.6%、「恋人や配偶者」が37.3%となっています。年齢によらず「親」が多いものの、中学2年生では「学校の友達」が多くなり、若者では「恋人や配偶者」が有力な相談先になってきます。

「だれにも相談できない」は、小学5年生で5.7%、中学2年生で3.4%、若者で6.8%となり、わずかながら若者での割合が高くなっています。



※<小5・中2>と<若者>では選択肢が異なり、選択肢のない項目は空欄となっている。

- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 第5章
- 資料

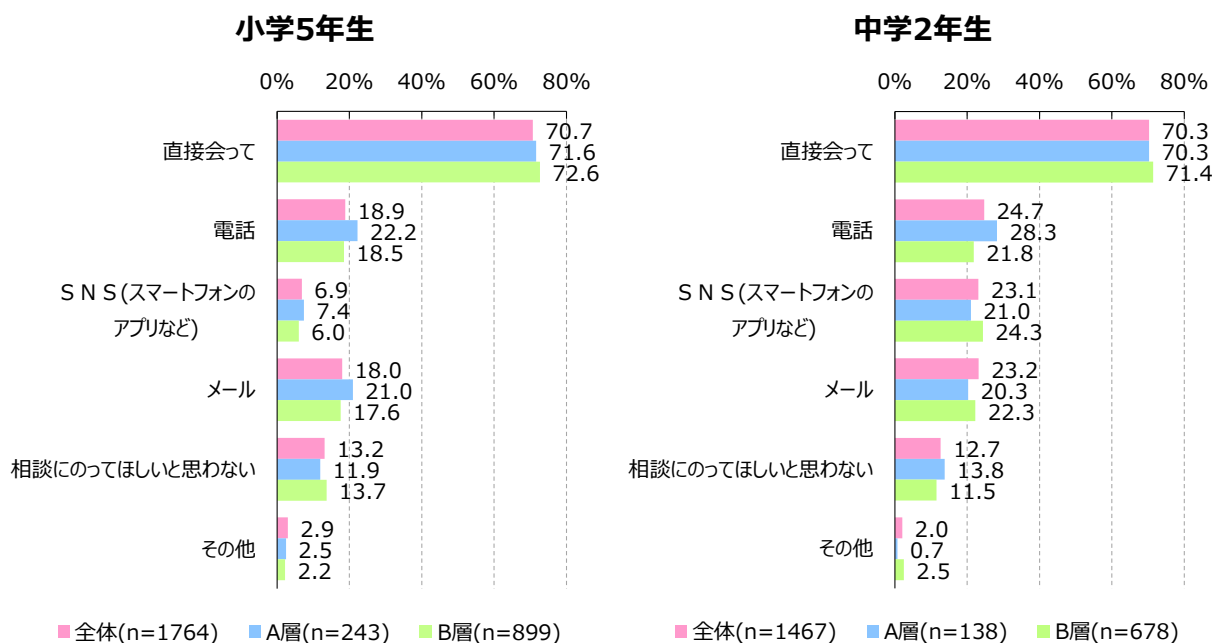
<小5・中2>

問 なやみごとや心配ごとがあるとき、どのような方法で相談にのってほしいか(複数回答)

小学5年生全体では、「直接会って」が70.7%、「電話」が18.9%、「メール」が18.0%、中学2年生全体では、「直接会って」が70.3%、「電話」が24.7%、「メール」が23.2%となっています。

経済的な状況による特定の傾向よりも年齢による違いの方がみられ、小学5年生、中学2年生ともに「直接会って」が最多ですが、「SNS(スマートフォンのアプリなど)」では、小学5年生より中学2年生の方が16.2ポイント多くなっています。

「相談にのってほしいと思わない」は、小学5年生で13.2%、中学2年生では12.7%みられます。



(5)子育てや教育に関する経済的負担

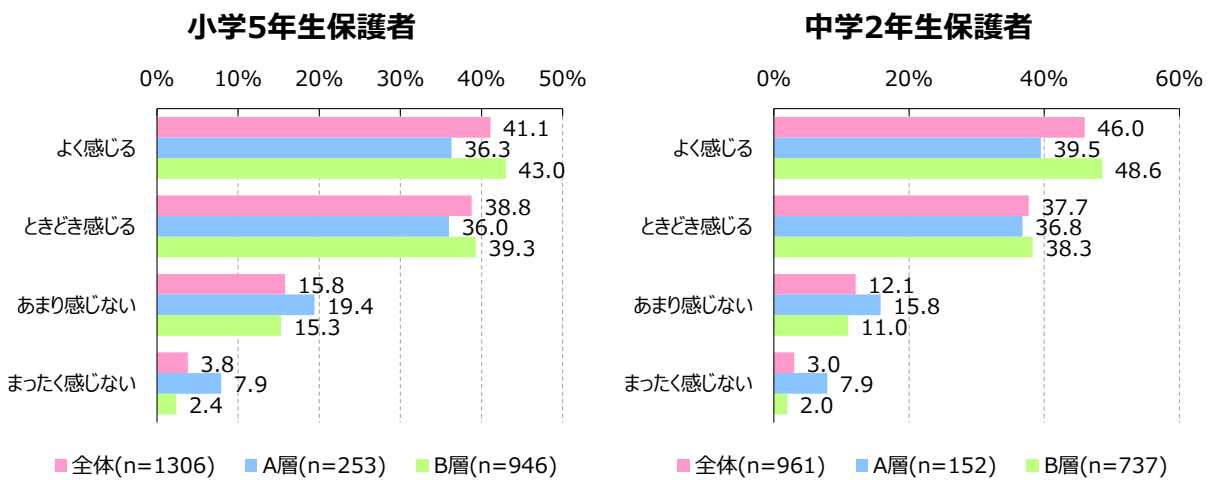
子育てにかかる経済的な負担感

<保護者>

問 生活の中で子育てにかかる経済的な負担を感じるか(単一回答)

小学5年生保護者全体では、「よく感じる」が41.1%、「ときどき感じる」が38.8%、「あまり感じない」が15.8%、中学2年生保護者全体では、「よく感じる」が46.0%、「ときどき感じる」が37.7%、「あまり感じない」が12.1%となっています。

経済的な状況別に「よく感じる」と「ときどき感じる」を加えた『感じる』をみると、小学5年生保護者、中学2年生保護者ともに、A層がB層より少なくなっています。反対に、「あまり感じない」と「まったく感じない」を加えた『感じない』をみると、A層がB層より多くなっています。



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料

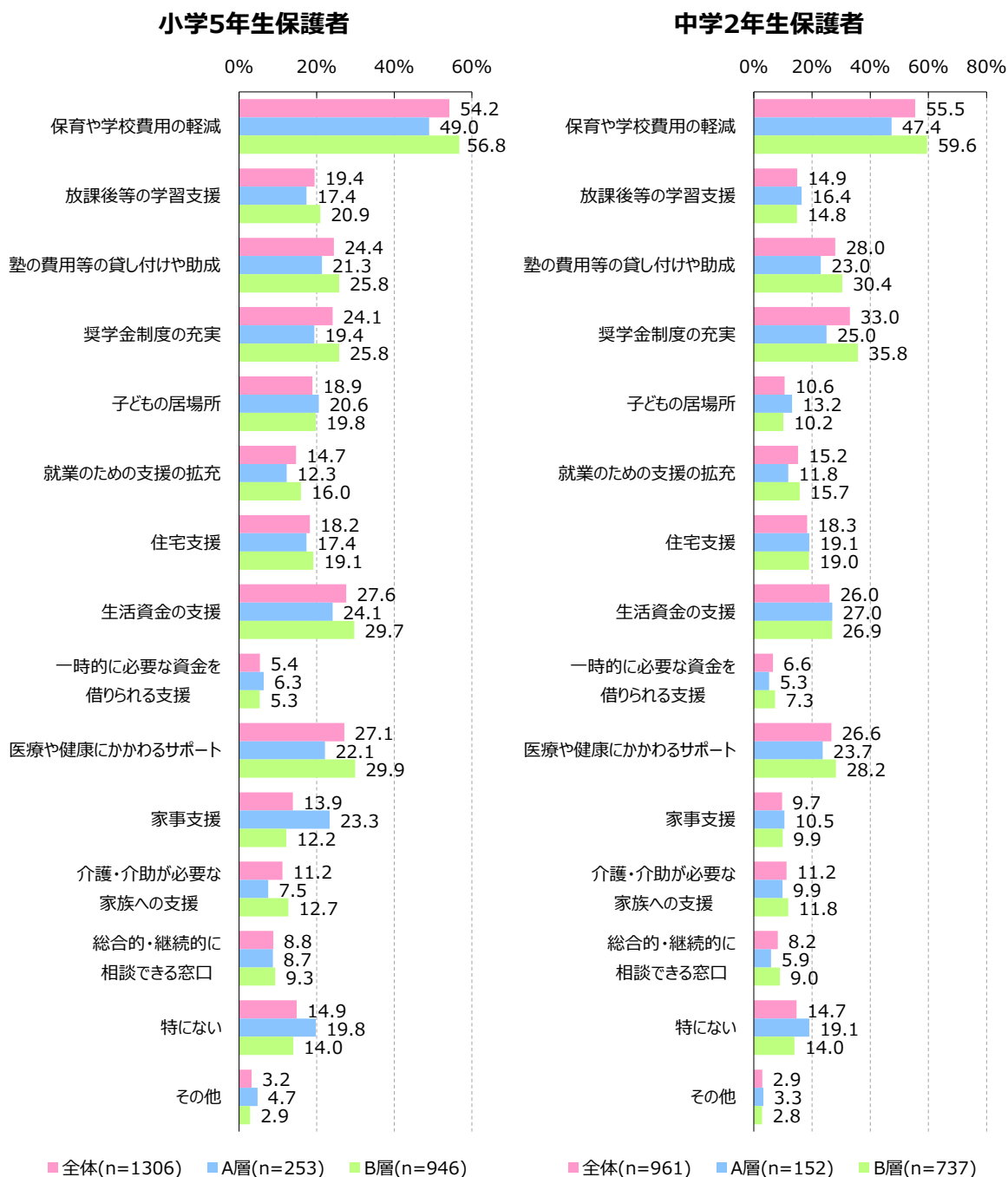
## 保護者が必要だと思う支援

<保護者>

問 現在、必要だと思う支援はどのようなことか(複数回答)

小学5年生保護者全体では、「保育や学校費用の軽減」が54.2%、「生活資金の支援」が27.6%、「医療や健康にかかわるサポート」が27.1%、中学2年生保護者全体では、「保育や学校費用の軽減」が55.5%、「奨学金制度の充実」が33.0%、「塾の費用等の貸し付けや助成」が28.0%となっています。

こどもの年齢によらず、経済的な支援が上位となっています。



## (6)若者の将来の希望と生活・結婚・子どもを持つことなどの意向

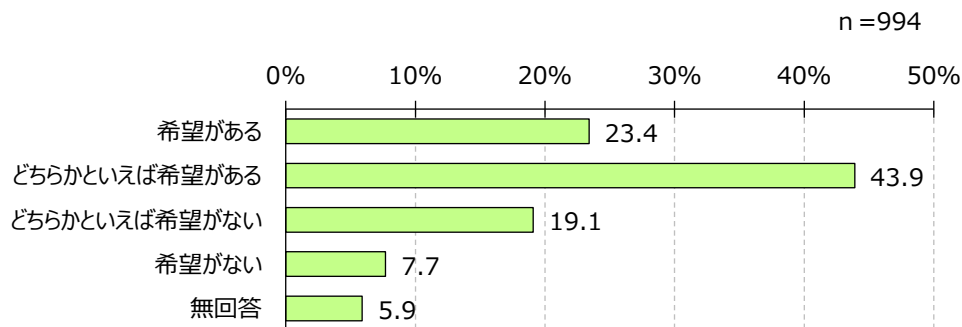
## 将来への希望

&lt;若者&gt;

問 自分の将来について、明るい希望を持っているか(単一回答)

「どちらかといえば希望がある」が 43.9%、「希望がある」が 23.4%、「どちらかといえば希望がない」が 19.1%、「希望がない」が 7.7%となっています。

年齢別では、総じて「希望がある」は年齢が高くなるにつれて少なくなり、「どちらかといえば希望がない」「希望がない」は年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられます。



## ▼性別、年齢別

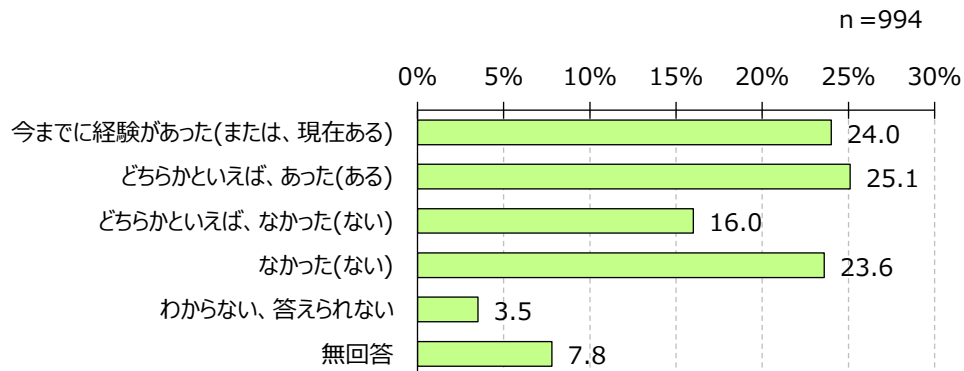
	n	(%)				
		希望がある	どちらか といえば 希望があ る	どちらか といえば 希望がな い	希望がな い	無回答
全体	994	23.4	43.9	19.1	7.7	5.9
男性	389	22.4	42.1	18.3	8.5	8.7
女性	594	24.4	44.8	19.9	6.9	4.0
その他	9	11.1	33.4	11.1	33.3	11.1
16歳～19歳	204	33.3	43.6	11.8	4.9	6.4
20歳～24歳	135	24.4	42.3	17.8	5.9	9.6
25歳～29歳	149	24.2	41.6	18.8	9.4	6.0
30歳～34歳	210	18.6	47.2	21.4	7.6	5.2
35歳～39歳	288	19.8	43.3	23.3	10.1	3.5

## 社会生活や日常生活が円滑に送れなかった経験

<若者>

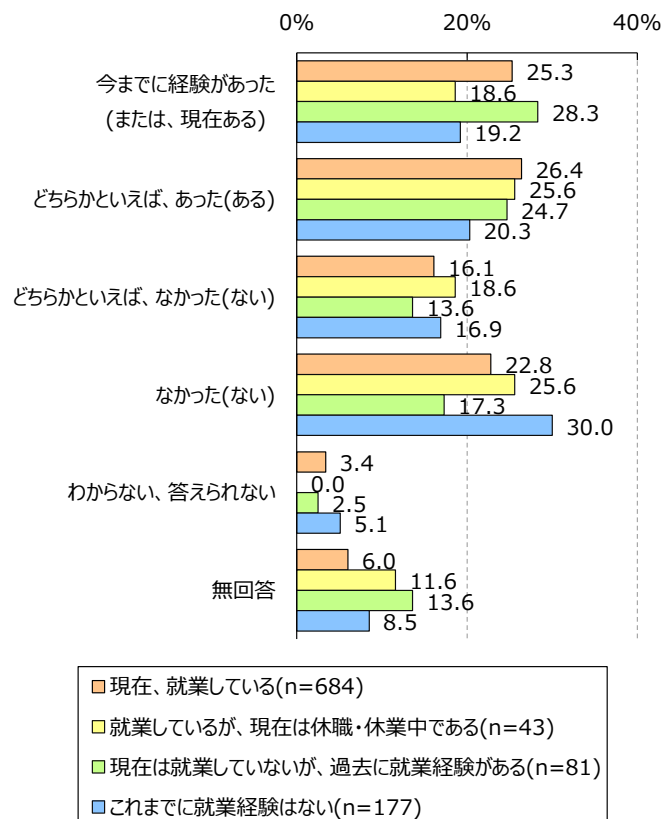
問 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験があったか(現在あるか)(単一回答)

「どちらかといえば、あった(ある)」が25.1%、「今までに経験があった(または、現在ある)」が24.0%、「なかった(ない)」が23.6%、「どちらかといえば、なかった(ない)」が16.0%、「わからない、答えられない」が3.5%となっており、約半数が社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験をしたと回答しています。



就業経験別にみると、『現在は就業していないが、過去に就業経験がある』の人は「今までに経験があった(または、現在ある)」との回答が最も多く、『これまでに就業経験はない』の人は「なかった(ない)」との回答が最も多くなっています。

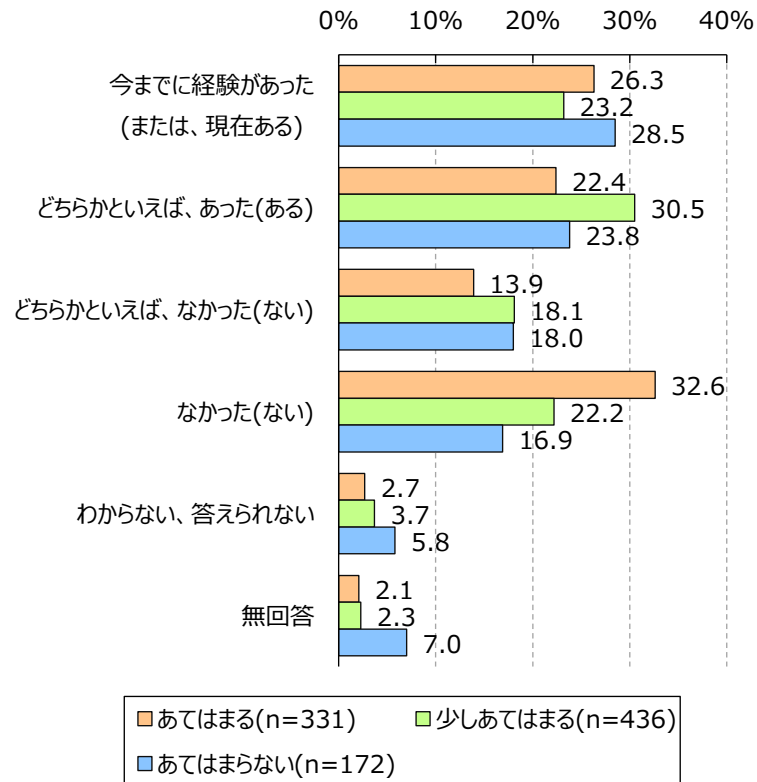
### ▼就業経験別



今の自分が好きかどうかとの関連性をみると、『あてはまらない』の人は「今までに経験があった(または、現在ある)」との回答が最も多く、『あてはまる』の人は「なかった」との回答が最も多くなっています。

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験が、自己肯定感に影響を及ぼしていることがうかがえます。

#### ▼今の自分が好きかどうか別



## 結婚の意向

<若者>

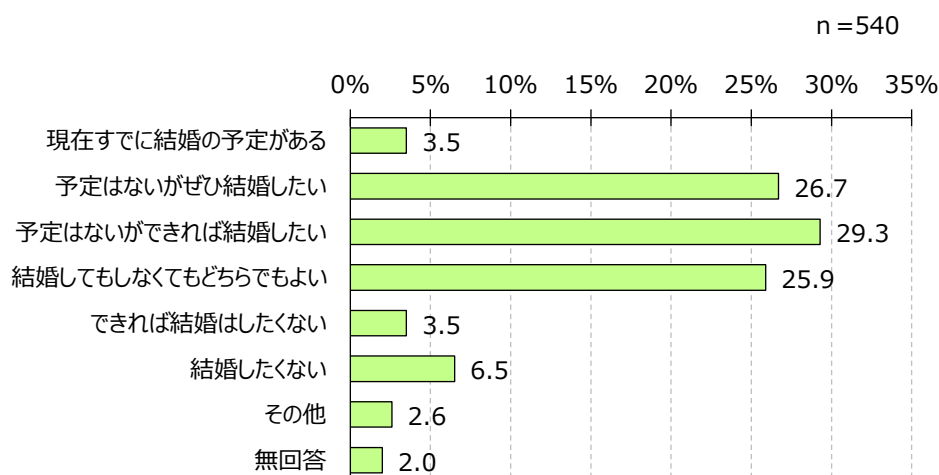
(婚姻状況・恋愛状況で「配偶者・恋人はいない」「配偶者はいないが恋人はいる」の方(未婚の方))

問 結婚についてどのように考えているか(単一回答)

「予定はないができれば結婚したい」が 29.3%、「予定はないがぜひ結婚したい」が 26.7%、「結婚してもしなくてもどちらでもよい」が 25.9%、「結婚したくない」が 6.5%、「現在すでに結婚の予定がある」及び「できれば結婚はしたくない」が 3.5%となっています。

現在の仕事別にみると、「現在すでに結婚の予定がある」では、「正規の社員・職員・従業員」が最も多くなっています。

「できれば結婚はしたくない」では、「無職(仕事を探している)」で 5.3%と他の意向より多くなっており、「結婚したくない」では、「無職(仕事を探していない)」で 5.7%と他の意向より多くなっています。



### ▼現在の仕事別

	n	現在の仕事												その他	無回答
		学生・生徒(予備校生などを含む)	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託	正規の社員・職員・従業員	会社などの役員	自営業・自由業	家族従業者・内職	専業主婦・主夫	家事手伝い	無職(仕事を探している)	無職(仕事を探していない)		
全体	994	26.0	9.6	0.6	2.9	48.0	0.4	3.7	1.3	3.7	0.2	1.2	0.5	1.0	0.9
現在すでに結婚の予定がある	19	10.5	10.5	0.0	10.5	68.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
予定はないがぜひ結婚したい	144	49.9	2.8	1.4	1.4	41.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	2.1	0.0
予定はないができれば結婚したい	158	40.5	6.3	0.0	4.4	42.5	0.6	1.3	0.0	0.0	0.0	1.9	0.6	1.3	0.6
結婚してもしなくてもどちらでもよい	140	51.6	4.3	0.0	2.1	37.1	0.0	2.1	0.7	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0
できれば結婚はしたくない	19	36.8	0.0	5.3	5.3	42.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0
結婚したくない	35	20.0	17.1	2.9	2.9	37.0	0.0	8.6	0.0	0.0	2.9	2.9	5.7	0.0	0.0
その他	14	35.7	7.1	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0

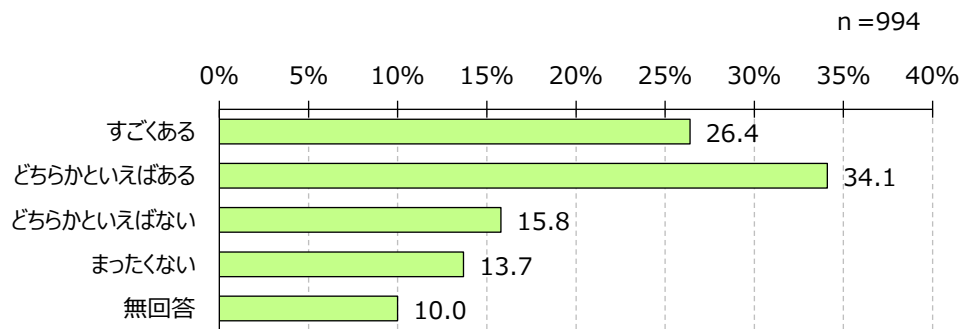
### 子どもをもつことへの気持ち

<若者>

問 「将来子どもが欲しい」または「もっと子どもが欲しい」という気持ちはあるか(単一回答)

「どちらかといえばある」が34.1%、「すごくある」が26.4%、「どちらかといえばない」が15.8%、「まったくない」が13.7%となっています。

性別で明らかな差異はみられません。年齢別では、「すごくある」は25歳～29歳へ向けて年齢が高くなるほど多くなり、20代後半をピークに少なくなっていくことが分かります。



#### ▼性別、年齢別

	n	すごくある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	まったくない	無回答
全体	994	26.4	34.1	15.8	13.7	10.0
男性	389	23.7	36.1	15.2	13.9	11.1
女性	594	28.6	33.2	16.0	13.3	8.9
その他	9	0.0	11.1	33.4	22.2	33.3
16歳～19歳	204	22.1	38.2	17.6	10.8	11.3
20歳～24歳	135	36.2	32.6	11.9	6.7	12.6
25歳～29歳	149	39.6	32.9	8.1	8.7	10.7
30歳～34歳	210	26.7	35.2	18.1	11.0	9.0
35歳～39歳	288	17.7	32.3	19.1	23.3	7.6

<若者>

(こどもが欲しい気持ちが「すごくある」「どちらかといえばある」の方)

問 希望するこどもの数をもつために、どのような環境や支援があればよいと思うか(複数回答)

「希望どおり産休や育休が取得できる」が 66.1%、「子育てに関する経済的支援施策がある」が 64.8%、「妊娠中・出産後も同じ勤務先、部署で継続して就業できる環境がある」が 61.6%、「配偶者・パートナーの協力・理解が得られる」が 58.6%、「自分や配偶者・パートナーの勤務先での長時間勤務の削減など、働き方が見直される」が 58.0%となっています。

就労の環境や経済的な支援に関するものが上位となっています。



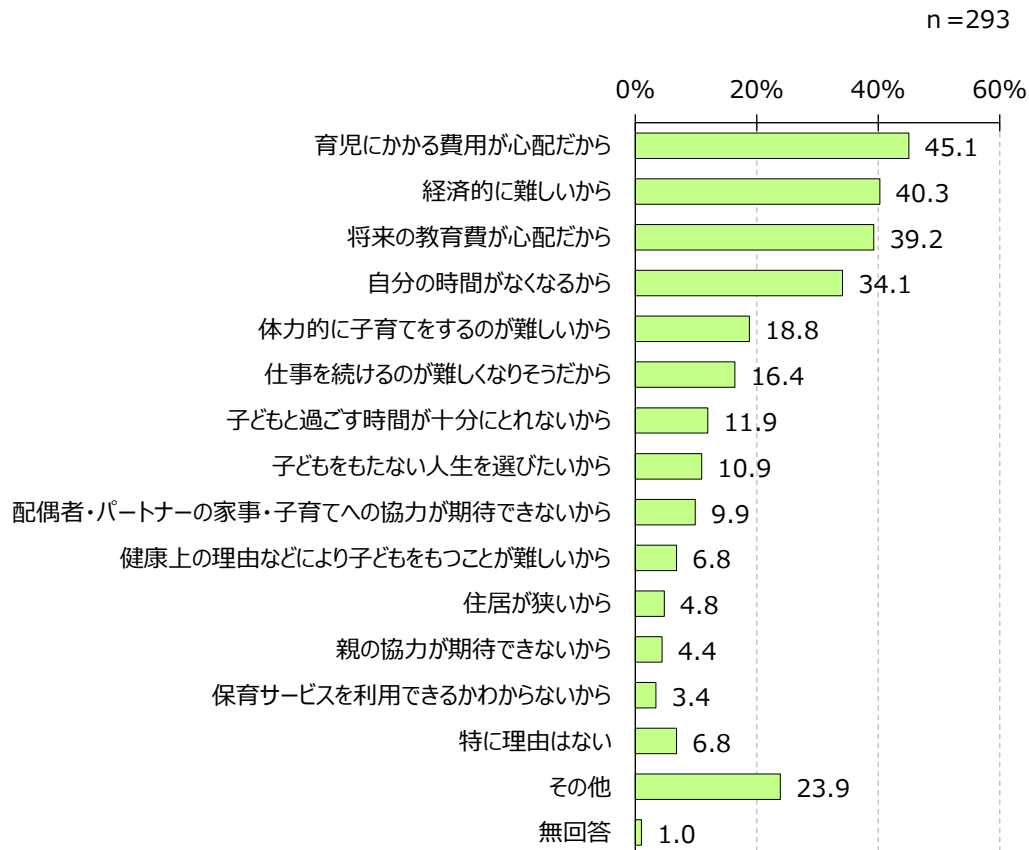
<若者>

(子どもが欲しい気持ちが「どちらかといえばない」「まったくない」の方)

問 子どもを欲しいという気持ちがない理由(複数回答)

「育児にかかる費用が心配だから」が45.1%、「経済的に難しいから」が40.3%、「将来の教育費が心配だから」が39.2%、「自分の時間がなくなるから」が34.1%、「その他」が23.9%となっています。

経済的な理由が上位となっています。



# 3 こども・若者の意見聴取

## 1 佐賀市こどもミーティング2025

### (1)主旨

こどもの意見を表す権利は、「子どもの権利条約」<sup>5</sup>において4つの原則の1つとされており、「こども基本法」第3条の基本理念には、こども施策を行う上で意見を表明する機会が確保されることや意見が尊重されることが定められ、同法第11条では意見を反映させるために必要な措置を講ずるとされています。

このような考え方をもとに、市ではこどもの意見を聴取し取組への反映を検討するため、市内の小中学生と中学生・高校生を対象とした「佐賀市こどもミーティング2025」を実施しました。

### (2)日時・会場・参加者

○日時:

令和7年6月15日(日)

①10:00～12:00 小学生

②14:10～16:10 中学生・高校生

○開催場所:佐賀市役所 本庁4階 大会議室

○参加者:

①市内の学校に通う小学4年生～6年生(49名)

②市内の学校に通う中学生・高校生(40名)

### (3)実施概要

○こども5～6人とファシリテーター1人ずつ、A～Hの8グループで着席。

○ファシリテーターはこどもたちと年齢の近い市役所の職員が務める。

○「こんな居場所があったらいいな!」、「こどもにとっての幸せって何だろう?」の2つのテーマについて、ワークショップ方式で自由に意見を出し合い、最後にグループごとにこどもたち自身が発表。

小学生



中学生・高校生



<sup>5</sup> 子どもの権利条約：こどもは権利を持つ主体であるという考え方に基づく。条約の定めるさまざまな権利に共通する基本的な考え方は「4つの原則」と呼ばれ、日本の「こども基本法」にも取り入れられている。4つの原則は「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」(日本ユニセフ協会による)。平成元年(1989年)国連採択、平成2年(1990年)発効し、日本は平成6(1994年)に批准した。

## (4)こどもたちの主な意見

### テーマ1 こんな居場所があったらいいな！

#### 小学生

家族と一緒に遊べる	みんなとふれあえる	仕事を体験できる
自然などを使った道具のある公園	自由に遊べる公園	困ったときに話を聞いてくれる
親に怒られたときの隠れ家	好きなことを思い切りできる	安全・安心な場所

#### 意見の傾向

### 1 多様な利用目的

- 相談・交流・安心感:「困ったときに話を聞いてくれる場所」「支え合いの場」といった意見があり、孤立せず、安心して意見を共有できる場所を求めています。
- レクリエーションと運動:スポーツ施設、屋内外の遊び場、バスケットコートやサッカーゴール、プール、遊園地などの施設に対する希望が出て、体を動かしながら楽しむ環境への期待がうかがえました。
- 創造的な遊び・学びの場:図書館、博物館、科学館など、知的好奇心を満たす学びや体験の場を希望する意見も多くみられました。

### 2 安全・安心な環境の重要性

- 安全な公共空間:交通安全、事故防止、いじめや不審者のいない環境を求める意見があり、安心して利用できる公共施設の重要性がうかがえました。
- 家庭・地域の連携:家族や地域でのふれあい、こども食堂や子育て応援施設など、家庭的なあたたかさを感じられる場が自分たちの支えにもなるという認識が見受けられました。

### 3 地域の居場所と具体的要望

- 地域密着型の施設:自分の住む地域に密着した公園や遊び場、また「こどもだけが入れる店」など、こどもならではの発想による地域密着型の居場所ニーズがみられました。
- 具体的な施設イメージ:カラオケ、ゲームセンター、動物園、水族館、遊園地などについて具体的な施設の名称を挙げるなど、見聞きしている他所の施設等への憧れのような気持ちが表れていました。



## 中学生・高校生

人と関わりを持てる	地域の人と交流できる	海外の人と交流できる
趣味の同じ人が集まる	悩みを聞いてくれる	1人で静かに落ち着ける
自然の近くの飲食店	コンセントがある	楽しく運動できる
スポーツができる	他の学年の人と勉強できる	夜まで勉強ができる

### 意見の傾向

#### 1 自由・安心・快適に過ごせる空間

- 「1人」「みんなで」の両面：「1人で落ち着ける場所」と「友だちと一緒に楽しめる場所」の両方へのニーズがみられました。
- 具体的な場所：静かで安心できる場所、好きなことができる空間、好きな時間に行ける居場所などとして、具体的にカフェ、自習室、自然の中の休憩所などがあげられていました。

#### 2 学びと交流を両立できる場所

- 学び：勉強ができる場所として、広い自習室や図書館、夜まで勉強ができる施設などが望まれていました。
- 交流：他校や地域との交流ができる場所、共通の趣味を持つ仲間と出会えたり交流できる場所などの意見もあり、勉強できることと人との関わりを両立した空間のニーズもうかがえました。

#### 3 遊び・趣味・イベントができる施設

- 楽しむ体験：遊園地、動物園、グランピング施設、アスレチックやライブ会場など、レジャーを楽しむ場所を望む意見が多くありました。
- 趣味の充実：趣味や推し活ができる空間、交流イベントが定期開催される場など、趣味を通じた体験やつながりの場づくりが求められていることがうかがえました。



## テーマ2 子どもにとっての幸せって何だろう？

## 小学生

好きなものに打ち込める	何でもチャレンジできる	友だちや家族と遊ぶ
夢をえがける	守ってくれる人がいる	ゲームや勉強をいっぱいできる
だれかに頼られる、ほめられる	おいしいものを食べる	お菓子を無限に食べられる

## 意見の傾向

## 1 幸せのイメージの多様性

- 基本的生活の充実: 家庭での安心感、「家に帰ってあたたかいご飯が食べられる」「自分のままで生きていける」といった、日常の生活が幸せの根幹であるという意見が多く出ていました。
- 個人の成長と挑戦: 好きなことに没頭できる環境、夢の実現、何でもチャレンジできる環境など、個人の成長や自由な発想を尊重する意見も目立ちました。
- 他者との関わりと支え合い: 家族や友だち、地域の人々とのふれあい、「みんながやさしくしてくれる」といった意見があり、こどもの幸せが社会や他者との連帯感から生まれるという認識が感じられました。

## 中学生・高校生

お金の心配なく夢に向かって頑張れる	自分の「好き」について勉強できる	人に喜ばれる、ほめられる
信頼できる人・物・場所がある	安全・安心に暮らせる	愛してくれる人がいる
自分で夢を決められる	夢を応援してくれる	生活に困らない

## 意見の傾向

## 1 「自由」と「自分らしさ」の尊重

- 自由と自分らしさ: 「自由」「テストがない」「やりたいことをできる」など、学業や社会からの制約を受けず、自分らしくいられることに幸せを見いだす意見が多数ありました。
- 干渉されない幸せ: 「好きなことに没頭できる」「だらだらできる」「気をつかわず過ごせる」など、他者から干渉されない状態や解放感を求める傾向もみられました。

## 2 人とのつながりと支え合い

- 他者の存在・関係: 「友だちがいる」「悩みを相談できる」「信頼できる大人がそばにいる」など、他者との関係性を通じた安心感や喜びが幸せの要因としてあげられていました。
- 自分への評価や状態: 「認められる」「褒められる」といった自分への評価や、「一緒に笑い合える」といった他者との関係が心の支えになっていることもうかがえました。

## 3 安定した生活と経済的安心

- 生活の安定や金銭的不安がないこと: 「毎日ご飯が食べられる」「衣食住がある」「お金を気にせず好きなことができる」など、生活の安定や金銭的不安の解消も関心事となっていました。

## 2 声を届けにくい・聴かれにくい子どもや若者からの意見聴取

### (1)主旨

こども大綱では、こども施策を推進するために必要な事項の1つとして「多様な声を施策に反映させる工夫」を挙げています。「障がいがある」「外国にルーツを持つ」「ヤングケアラー」「不登校・ひきこもり」「社会的養護<sup>6</sup>経験がある」など、さまざまな状況にあって声を届けにくい・聴かれにくい子どもや若者の意見を聴くため、支援を行っている団体・組織に協力いただき、ヒアリングやWEBアンケートを実施しました。

### (2)実施概要

- 実施時期：令和7年5～6月
- 協力を得た支援団体・支援者：
  - 「社会的養護」「里親」「障がい」「ひきこもり」「不登校」「ヤングケアラー」「外国にルーツを持つ」などの、こどもや若者への支援を行っている団体
- 実施方法：
  - 支援団体や支援者によるヒアリング、WEBアンケートフォームによる回答
- 得られた意見・回答：65件
- 聴取対象者・回答者の年齢層・性別

年齢層	男性	女性	無回答	総計
0～5歳	0	3	0	3
6～12歳	11	9	1	21
13～15歳	9	13	0	22
16～18歳	4	7	0	11
19～22歳	0	1	0	1
23～29歳	3	2	0	5
30～39歳	0	2	0	2
総計	27	37	1	65

(人)

### (3)結果・主な意見

#### ○好きな時間や場所

##### 友だち・人とのつながり

友だちと遊ぶ(8)	遊ぶ(2)	好きな人とお話しする
親しい友人や恋人と一緒にいる	電話している	友だちと通話しながらのゲーム

※ ( ) は同種の意見の件数 (以下同じ)

##### 学校・場所

学校(2)	運動場(2)	図書館(2)
学校で遊ぶ	映画館	リラックスできる場所
駅	1人になれて静かな場所	公園

<sup>6</sup> 社会的養護：保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。

## 家

家(8)	寝る時間(3)	ふとんでごろごろしている(2)
自分の部屋(2)	ベッドの中(2)	家でゲームをしている
1人で家にいる	家の庭	家でゆっくりする

## 行動・過ごし方など

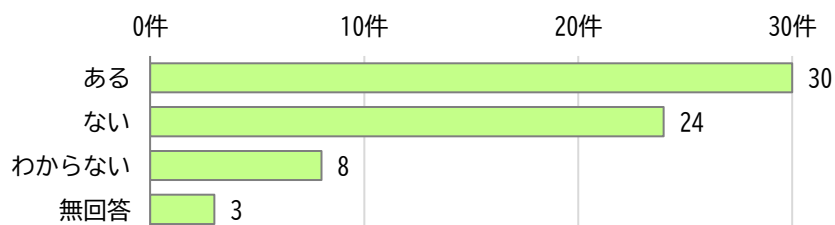
ゲームをしている(6)	ご飯を食べる(4)	運動している(2)
絵をかいている(2)	外で遊べる	野球をしている
部活	歌う・音楽をきく	1人でコーヒーを飲む
楽器を演奏する	本を読む	デイサービス

## 意見の傾向

自分にとって心地よい時間や空間について聞いたものです。子どもや若者が日頃感じていることや望んでいる環境が具体的に表れています。日常の安心感や楽しみの内容がよく分かり、抽象的なことばではなく、実際の生活経験に根ざした具体的な意見となっています。

さまざまな状況にあって声を届けにくい・聴かれにくい子どもや若者を対象とし、年齢層も幅広く意見聴取した結果、小学生と中学生、高校生の「こどもミーティング」における「求める居場所」や「こどもの幸せ」にみられたものと比べて際立った違いがあるわけではなく、同じような意見があがっています。

## ○これまでに困ったことはあるか



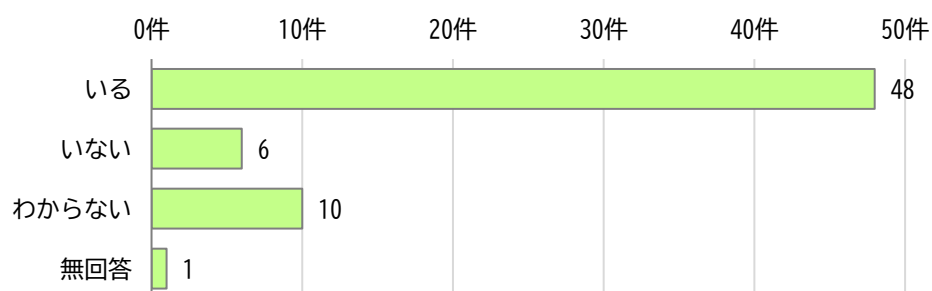
## 困ったことは何か

友だちや仲間のこと(20)	勉強や進学のこと(19)	性格のこと(13)
見た目・容姿のこと(14)	家族のこと(13)	お金のこと(12)
健康のこと(9)	好きな男の子や女の子のこと(4)	

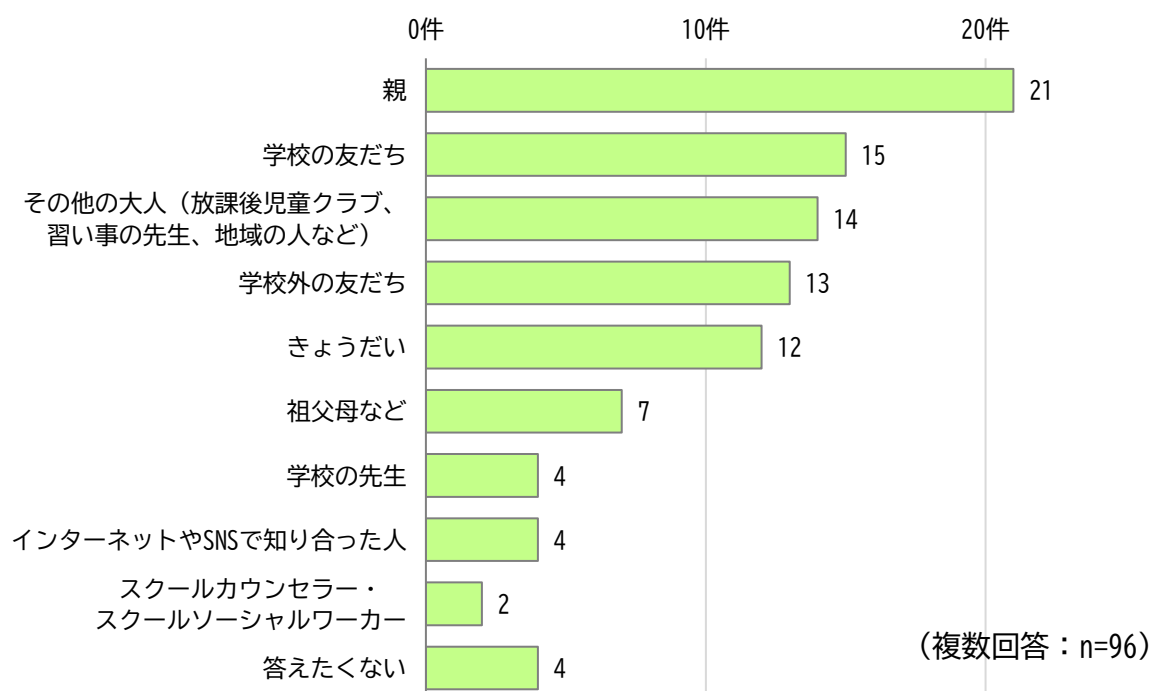
## 意見の傾向

困難や悩みの経験とその具体的内容について聞いたものです。これまでに困ったことが「ある」人の方が、「ない」人より多くなっています。その内容は、容姿や性格、健康など自身に関することと、友だち・仲間や家族、異性といった、人との関係性に関することに大別できます。加えて、経済的な要素「お金のこと」も多くみられます。

○楽しいことや、嫌なことを何でも話せる相手はいるか



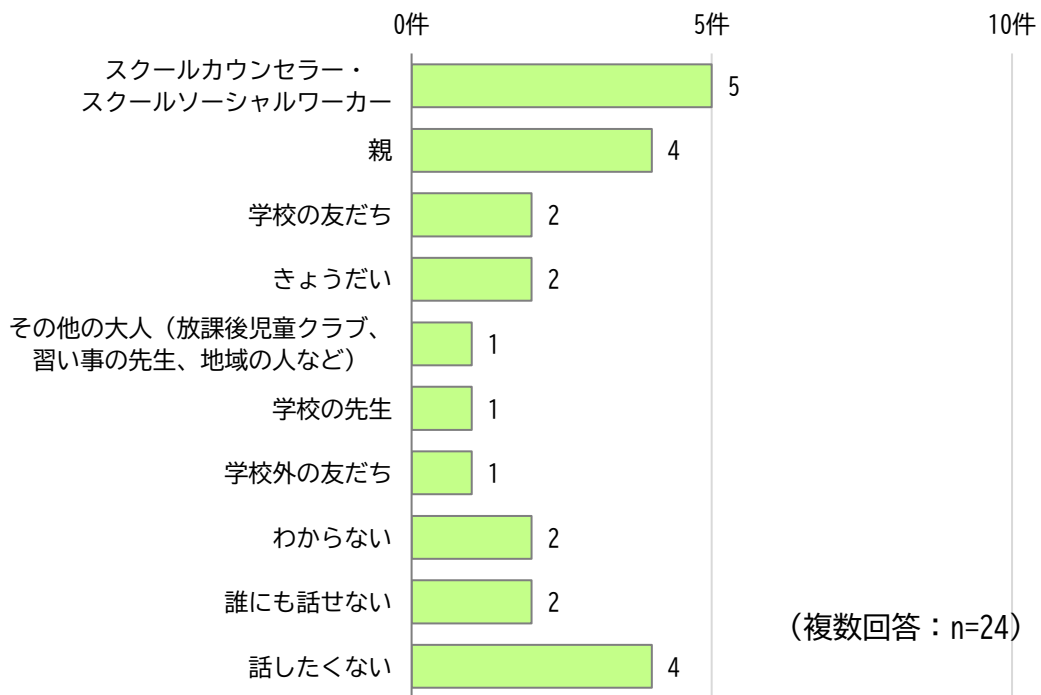
○（相手が「いる」人）何でも話をできる人はどんな人か



意見の傾向

自由に話せる人の有無と具体的な相手について聴いたものです。楽しいことや、嫌なことを何でも話せる相手は、「いる」人が多数でした。何でも話をできる人は「親」が最も多くなっています。また、友だちや家族・親族以外の大人という意見も多くみられます。

## ○（相手が「いない」人）どんな人なら話をしてみたいと思うか



## 意見の傾向

何でも話せる相手が「いない」と答えた人に対して、話をしてみたいと思う相手を聞いたものです。公的に相談に応じる「スクールカウンセラー<sup>7</sup>・スクールソーシャルワーカー<sup>8</sup>」が「親」よりも多くなりました。こどもの生活アンケート「なやみごとや心配ごとがあるとき、相談できると思う人」において、「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー」との回答割合が小学5年生、中学2年生ともに約5%であったことと対照的です。

<sup>7</sup> スクールカウンセラー：児童生徒に対する相談のほか、保護者や教職員に対する相談、教職員等への研修、事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の心のケアなどを行う心理の専門職。

<sup>8</sup> スクールソーシャルワーカー：児童生徒が生活の中で抱えている、日常生活上の悩みやいじめ・暴力行為、虐待などさまざまな問題の解決に関わる専門職。

### ○今、熱中していること

ゲーム(7)	部活(3)	ご飯を一生懸命食べる(2)
運動(2)	サッカー(2)	野球の練習
バレエ	テニス	前転倒立
映画を観る	占い	受験勉強
日本史の勉強	プラモデル、列車の撮影	ドラム、ギター、BMX
料理、アニメ	推し活	妹とあそぶこと

### ○これから頑張りたいこと

勉強(12)	宿題(2)	学校の勉強、資格、受験
保育士になるための勉強	福祉の勉強を頑張る	エステのライセンス
ていねいに字を書く	九九と漢字	泳げるようになりたい
部活	テニス	運動
推し活	ゲーム	ご飯を早く食べる
陸上自衛隊員になるという夢がある。しっかり材料集めをしたり勉強も集中して夢に近づいていきたい		
日本語。今自分が勉強していることが将来の夢につながるように頑張る		
将来の夢を決められるように頑張りたい		
コミュニケーション、切り替え、自信を持つこと		
京都や奈良に行ってみたい。いろんな博物館に行ってみたい		

### ○熱中していることや、頑張りたいことについて、大人に手伝ってほしいこと

いっしょに練習したい	サッカークラブに入りたい	漢字とかを教えてほしい
メンタルケア、励まし	将来、進学のことについて	勉強指導、サポート
少しいいからお金を出してほしい	工作の道具や勉強につきあってほしい	
もっとスピリチュアルな話を聞いてほしい	わからないことは教えてほしい	

### ○住んでいるまちにあっという間と思うもの

公園(2)	遊園地(2)	ショッピングモール(2)
図書館	国際空港	駅
こども食堂	自由に話せる相談窓口	誰でも気軽に入れる家
BMXの練習場	虫の博物館	ゲームセンター
いろいろな人が、好きなもので集まれる場所	ホビーゾーン(プラモデルがいっぱいある所)	
歴史物(あるけどもっとふえてほしい)	わからない(22)	

### 意見の傾向

関心事、挑戦したいこと、支援ニーズ、環境ニーズについて聞いたものです。一般的で生活に即した意見が多く、将来の夢や大人に手伝ってほしいことなどでは、具体的な意図のある意見もみられます。